

2025 年度大東文化大学大学院【秋季】
入学試験経済学研究科 経済学専攻（博士課程前期課程）
ミクロ経済学 模範解答

1.

(1-1) 均衡価格 30、均衡取引量 60

(1-2) 均衡価格（消費者価格）42、消費者負担 12、生産者負担 6

(1-3) 864

2.

(2-1) 大人の映画需要の価格弾力性は、子どもの映画需要の価格弾力性よりも小さいと考えることができる。大人は、入場料が安くても興味のない映画を観ようとはしないし、ぜひ観たいと思う映画であれば、高い入場料を支払ってでも観ようとすると考えられる。一方、子どもの場合は金銭的な制約が大きいため、入場料の水準が需要に大きな影響を及ぼすと考えられる。例えば、入場料を安くすることによって、より多くの子どもを惹きつけることができる。

(2-2) 子ども料金を大人料金よりも低く設定するのが合理的である。子どもの映画需要は一般に価格弾力性が大きいため、料金を引き下げると入場者数が大きく増加する。その結果、値下げによる減収額よりも、入場者数の増加による増収額の方が大きければ、映画館の総収入と利潤は増加する。一方、映画需要の価格弾力性が相対的に小さい大人に対しては、子どもよりも高い料金を設定することが合理的である。

3.

(3-1) $TC = q^3 - 6q^2 + 24q + 216$, $MC = 3q^2 - 12q + 24$, $AC = q^2 - 6q + 24 + 216/q$,
 $AVC = q^2 - 6q + 24$

(3-2) AC が最小となる生産量 $q = 6$, AVC が最小となる生産量 $q = 3$

(3-3) 生産量 7、利潤 176

4.

(4-1) 価格 40、供給量 80、総余剰 1,600

(4-2) 48

(4-3) 48

(4-4) 2,880

5.

(5-1) 保険契約後、被保険者の行動を保険会社が完全に観察できないので、両者の間に情報

の非対称性がある。その結果、保険加入者がリスクの高い行動をとるインセンティブがある。

(5-2) 労働者の能力は労働者本人にしか正確にはわからず、雇用者側は完全に把握できないので、両者の間に情報の非対称性がある。その結果、企業が平均的な賃金しか提示することができず、有能な労働者が市場から退出する可能性がある。

6.

(6-1)

A：なし B：なし

(6-2)

ナッシュ均衡における戦略の組は (b, c) および (a, d)

(6-3)

(イ) チキン・ゲーム